

日本農学賞を受賞して

今村祐嗣（京都大学名誉教授・一般財団法人建築研究協会）

4月5日、東京大学山上会館にて開催された第85回日本農学会大会におきまして。平成26年度日本農学賞を三輪睿太郎日本農学会会長から、第51回読売農学賞を長谷川聖治読売新聞社東京本社科学部長から授与されました。日本農学賞を授与する日本農学会につきましては、日本農学会前会長の大熊幹章先生がこのウッドイエンス メールマガジンのバックナンバー（2010/06/18 No.016）に紹介されていますので、ぜひご覧頂きたいと思いますが、現在加盟しているのは50の学協会幅広く農学全般の分野にわたっています。今年度はわたしを含め、日本作物学会、日本家禽学会、日本植物病理学会、日本獣医学会/日本畜産学会/日本繁殖生物学会、日本農芸化学会、日本雑草学会から推薦された合計7名が受賞しました。

この度の授与は、推薦頂きました日本木材学会はもちろん、共同研究者の皆さん。関連学協会、産業界等々の多くの方々のご協力のたまものであり、厚く御礼を申し上げます。また、身に余る光栄なことと存じていますが、私の受賞をお聞きになった沢山の方々から祝福して頂いたこと、ならびに世を上げて木材の利用促進が進められている折の受賞であり、農学における木材学の認識の向上に繋がることで一層の喜びを感じています。

受賞対象となったのは「木材の生物材料特性に基づく耐久性の向上に関する研究」という課題ですが、樹木によって形成された細胞構造から成る木材の特性に基づいた耐久性向上に関する研究であり、木材と腐朽菌やシロアリとの関わりについての基礎的研究から木材の生物劣化抵抗性向上の実用的な技術開発までを包含しています。その内容は、1) 木材の液体注入性の向上技術、2) 木材の化学修飾による高耐久化、3) 木材の非破壊的劣化診断法の開発、4) 耐久性向上に基づく木材の利用拡大の取組みにまとめられます。

各内容につきましては、本号にこの文章と併せて受賞論文要旨を掲載させて頂きますので、そちらを参照いただけたらと存じます。

